平成１７年度
『生きる力を育てるキャリア教育』
～職業観・勤労観を育む学習プログラムの４能力の育成に焦点をあてて～

白鷹町立東中学校

１　主題について

(1)主題設定の趣旨

①キャリア教育の推進を目指すことから

本校の所在地である白鷹町は、平成１６年度に「新キャリア教育プラン推進事業」のキャリア教育推進地区として文部科学省からの指定を受け、平成１６年度から３か年にわたってその研究の推進にあたっている。

中学校における「キャリア教育」が目指すものは、以前から実践されてきている「本来的な進路指導」とほぼ同じものではないかと考えられる。しかし「進路指導」という言葉とは別に「キャリア教育」という言葉を用いるようになった背景には、日本の今日的な課題として「フリーター」指向の若者が増大していること等が挙げられ、その課題克服のため、生徒に育成すべき能力を明らかにした上で、小・中・高の連携のもとに、より多面的な教育活動を行うことが求められるようになってきた。

本校では第２学年で、学校行事として２日間連続の職場体験学習を取り入れ、また総合的な学習の時間に職業や上級学校についての調べ学習を行い、将来に向けて必要な職業観・勤労観を育んできた。しかし「キャリア教育」は、本来、各教科や道徳、特別活動等も含めた教育課程全体で行われるべきものである。具体的には、平成１４年度に国立教育政策研究所が「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を発表し、その中で「職業的(進路)発達にかかわる諸能力」(「キャリア教育」でつけていくべき能力）として、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の４能力(領域)を示した。それらの４能力の育成を目指すとき、現在本校が行っている進路指導及びそれに関わる体験学習だけでは不十分であり、特に各教科や道徳で育成すべき能力の認識が弱い現状である。

本校で今年度から研究に取り組む「キャリア教育」は、教育課程全体で行われる『生きる力』の育成の中でも、それらの４能力の育成に焦点をあてた教育活動としてとらえていく。具体的には、今まで学校行事や総合的な学習の時間を中心に行われてきた活動を意図的に再構成し、さらに各教科や道徳、特別活動等での指導を中核としながら、４能力の育成を目指していく。以上のことから、研究主題を上記の通りに設定した。

②学力向上フロンティア実践研究の成果と課題を生かすことから

本校は、平成１４～１６年度の３か年にわたり、文部科学省の「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、個に応じた指導の改善・工夫に関する実践研究に取り組んできた。そして昨年度は「『個が生きる授業の創造』～基礎・基本の定着や発展的な力の育成に結びつく評価と指導の工夫～」というテーマのもと、研究を進めた。その結果、２・３年数学科のコース制学習や３年英語科の少人数授業において個に応じた学習を展開することができ、生徒の学習意欲を高めたり、学習が遅れがちな生徒の理解度を向上させることができた。また他教科においても、１教時毎や小単元・単元毎に評価を行い、その結果をふまえて補充指導等を行う実践を進めてきた。さらに、学習プリント・学習カード等、個に応じた指導のための教材を工夫してきた。しかし、挙手発言等、生徒の積極的な学習姿勢の向上にまでは結びついていないという課題が残った。

今年度は、「キャリア教育」で目指す４能力の育成と関連させながら、昨年度までの研究の中で成果のあった「個に応じた指導」を継続するとともに、上記の課題の克服も目指していくこととする。

２　研究のねらい、仮説

(1)研究の方法

教育課程全体で研究を行うが、研究授業をその中核としながら日常の授業実践により研究の仮説にせまる。

(2)本校での「職業観・勤労観の捉え方」

【職業観】
職業についての理解や考え方と職業に就こうとする態度、および職業をとおして果たす役割の意味やその内容についての考え方・価値観

【勤労観】
日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度および役割を果たす意味や内容についての考え方・価値観

(3)めざす生徒像と「つけたい４つの能力領域」（年度当初案より年度途中に一部改訂）

【人間関係形成能力】
規範意識をしっかりと持ち、他者の個性を尊重したり自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、集中・協力・共同して生き生きとものごとに取り組むことができる生徒

【情報活用能力】
学ぶこと・働くことの意義・役割・多様性、並びに自己の個性を理解し、多様な進路情報を活用して、自己の進路選択に生かすことができる生徒

【将来設計能力】
豊かな心や希望を持って、今後の生き方や生活を考え、自己の卒業後の進路、将来の夢や職業を思い描くことができる生徒

【意思決定能力】
自らの目標達成や課題解決に関して、よりよい選択・決定を行い、それに向けての努力をやりぬく意志(意思)を持つことができる生徒

(4)「つけたい４つの能力」とそれを育成するために本校で研究対象とする活動領域・各教科等（◎印が育成の中心）

授業の領域 ＼ ４つの能力領域	各教科										道徳	学級活動	総合的な学習の時間	学校行事
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技家（技術）	技家（家庭）	英語				
人間関係形成能力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
情報活用能力	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
将来設計能力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
意思決定能力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(5)研究の仮説

教育課程全体を通して次のような指導を行っていけば、「めざす生徒像」に示した「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の４能力の育成を中心とした「生きる力」の育成が図られるのではないか。

① 具体的に育成できる能力とそれを育成するための具体的な活動場面を設定し、指導を行う。

- o 各教科……「人間関係形成能力」「意思決定能力」
- o 技術・家庭科の技術領域…「情報活用能力」も加える
- o 道徳……「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」
- o 学級活動…「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」
- o 総合的な学習の時間…「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」
- o 学校行事…「人間関係形成能力」「意思決定能力」

② 積極的な活動姿勢に結びつくための個に応じた指導の工夫を行う。

(6)研究の視点

①-a 各教科で、「人間関係形成能力」「意思決定能力」に関わって具体的に育成できる力を教科経営計画および学習指導案の中に明記する。

①-b 各教科で、生徒同士の関わり合いのある学習活動を取り入れ、「人間関係形成能力」の育成につなげる。

①-c 各教科で、生徒が自分の判断で選択できる学習課題や学習活動・学習教材(素材)を取り入れ、可能であれば選択の理由も表現させ、「意思決定能力」の育成につなげる。

①-d 技術・家庭科の技術領域においては、インターネット等を利用し、「情報活用能力」育成のための授業を行う。

①-e 道徳において、「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成に関わる徳目を全体計画の中に明記し重点的に授業で扱い、それらの能力の育成につなげる。

①-f 学級活動において、授業で扱う主題名と４能力との関係を年間指導計画の中に明記し、計画に従って授業を行うことにより、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成につなげる。

①-g 総合的な学習の時間において、年間指導計画の中に、総合学習でつけたい力と４能力の関係を明記する。また、１年：職業調べ等、２年：職場体験等、３年：進路学習等の活動を進め、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成につなげる。

①-h 学校行事として行う運動会・文化祭等の準備活動の中で、生徒の主体的な活動を行わせ、「人間関係形成能力」「意思決定能力」の育成につなげる。

②-a 全生徒が挙手・発言・発表できる場面を指導過程の中に取り入れる。

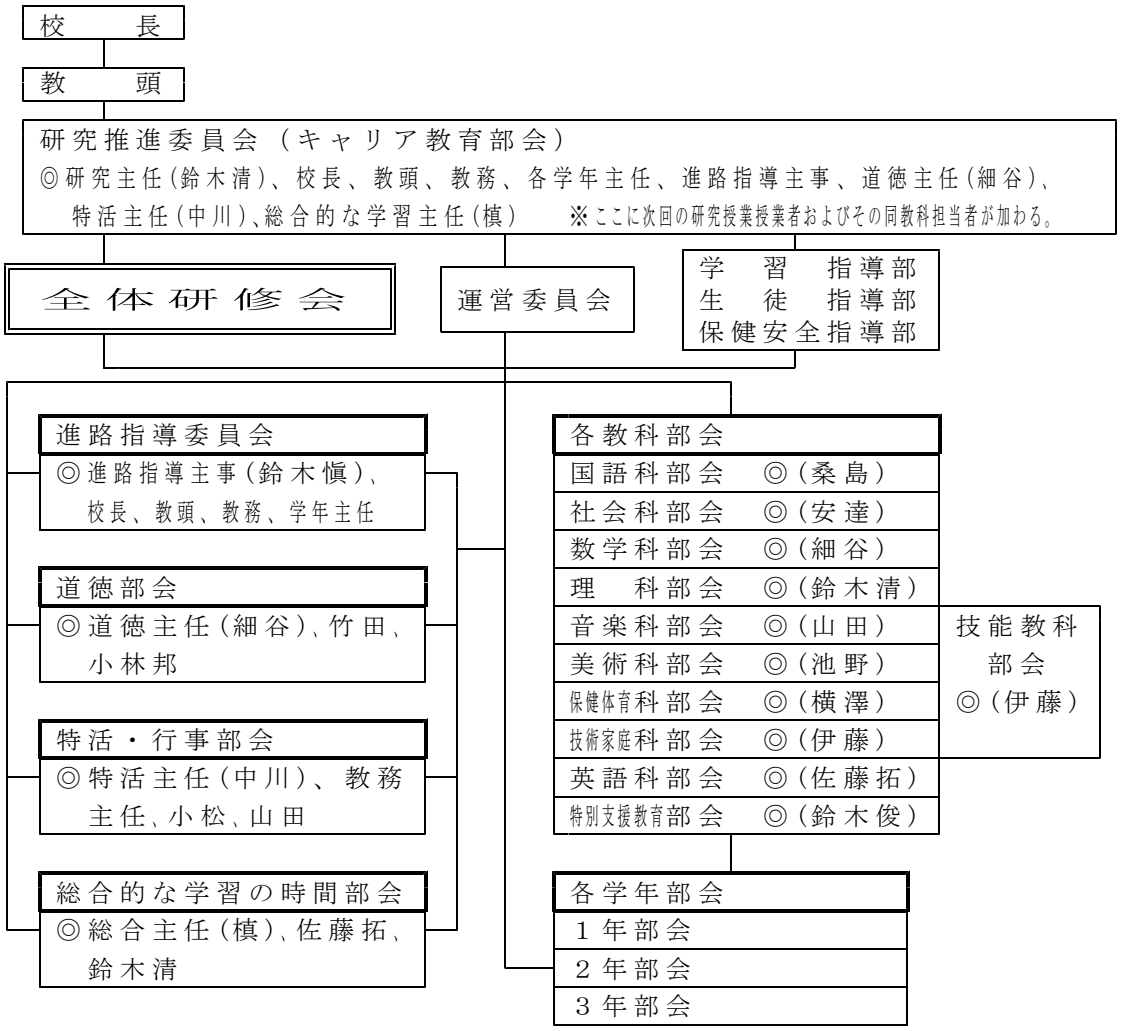
②-b 課題の自力解決を促すような補助発問・補助教具等を活用したり、少人数授業・コース制授業・Ｔ-Ｔ授業等の指導形態の工夫を行う。

３　研究計画・方法

(1)研究計画　　（◎…教育事務所＋教育委員会、○…教育委員会）

月日(曜)	研究内容	授業研究		その他の研究	指導主事要請
4/21(木)	研究推進委員会(今年度の学校研究の内容と方向性)				
5/18(水)	研究推進委員会（第１回授業研究会の持ち方について）				
5/25(水)	全体研修(今年度の学校研究の内容と方向性)				
6/ 7(火)	授業研究会	理科	(1-4)鈴木清教諭	教科部会	◎
6/ 7(火)	研究推進委員会（第２回授業研究会の持ち方について）				
6/27(月)	授業研究会	学活	(2-4)佐藤拓教諭	学年(特活)部会	◎
	(計画訪問)	技術･家庭	(1-3)伊藤　教諭	教科部会	
9/ 6(火)	研究推進委員会（第３回授業研究会の持ち方について）				
9/21(水)	授業研究会	学活	(3-1)中川　教諭	学年(特活)部会	○
		国語	(1-1)桑島　教諭	教科部会	
10/24(月)	研究推進委員会（第４回授業研究会の持ち方について）				
11/21(月)	授業研究会	道徳	(1-2)池野　教諭	学年(道徳)部会	◎
	(計画訪問)	音楽	(2-2)山田　教諭	教科部会	
1/	学校研究の反省				
2/	次年度の学校研究の指針				

(2)研究の組織　　◎主任もしくは部会長



４　実践の概要

(1) 仮説１「４能力の育成を目指した指導」について

①『人間関係形成能力の育成』に関わって

指導過程の中に生徒どうしの関わり合いのある学習活動を取り入れることによって「人間関係形成能力」の育成を図ることを考えた。

【実践例１】《理科》（３年）「エネルギー」（運動とエネルギー）

エネルギーの変換に関する学習において、「おもりの位置エネルギー」→「モーターの軸の運動エネルギー」→「モーターを発電機として機能させた場合の電気エネルギー」というエネルギーの変換の実験を取り入れた。この実験は教科書で紹介されていないが、教材のそろえやすさや操作の点から見てペア実験に適した実験であり、ペア実験を行うことにより生徒同士の深い関わり合いを生むことをねらって仕組んだ。傍観者的な生徒が出てこない上、２人で協力し合わないと実験が進まないため、教師が意図したとおりペア同士の深い関わり合いの中で実験が進んでいった。例えば、モーターの軸への糸の巻き方について操作していない者がアドバイスを加えたり、よくないデータが出たときには「やり直そう。」という相談をしたりする姿が見られた。

【実践例２】《国語》（１年）「私の一冊」を紹介しよう　～紹介のスピーチをする～

１人１人のスピーチを単独ではなく、内容によってテーマ毎にグループを作り、テーマ・発表順を話し合う活動場面を取り入れた。そして、互いのスピーチにも興味を持ちながら話し合い活動が進んでいき、さらに個別のスピーチという意識だけでなくテーマ別グループ全体の発表という意識を持たせることができた。このことにより、「人間関係形成能力」を高めることができた。

「わたしの一冊」紹介スピーチ聞き取りカード

1年1組（　）番（　　）

順番	氏名	書名	スピーチ評価(ABC)		読みたい度	感想
1		風にやさしい数学絵本			☆☆☆☆☆	
2		ピカ助様をここまでサイコロ人			☆☆☆☆☆	
3		ももこの宝石物語	B	A	☆☆☆☆☆	
4		いつもの心に好奇心！	B	B	★★☆☆☆	
5		消えたCMタレント	A	A	★★★★★	
6		オリエント急行殺人事件	A	B	★★☆☆☆	
7		教育アリ	A	B	★★☆☆☆	
8		デルトラクエスト II	B	B	★★★★★	
9		月メダル池ノ茶坊者タチ	A	B	★★☆☆☆	
10		ズッコケ座の異郷伝説	A	B	★★☆☆☆	
11		貧窮のむこう	B	B	★★☆☆☆	
12		霧のむこうのふしぎな町	A	A	★★★★★	
13		まる子だった	A	B	★★★★★	
14		世界一級（ウイニングゴール	A	B	★★☆☆☆	
15		生きます、15歳	A	A	★★☆☆☆	
16		五体不満足	A	B	★★★★★	
17		坂辺り先生	A	B	★★★★★	
18		君ならできる	B	A	★★☆☆☆	
19		ナンバーワン	A	B	★★☆☆☆	
20		音量は語である	A	A	★★☆☆☆	
21		スター★ガール	B	A	★★☆☆☆	
22		Good Luck	A	A	★★★★★	
23		ローワンと魔法の地図	A	B	★★★★★	
24		みじかい命を抱きしめて	A	A	★★☆☆☆	
25		エイジ	B	A	★★★★★	
26					☆☆☆☆☆	

②『情報活用能力の育成』に関わって

【実践例３】《学級活動》（３年）「自分にあった進路先を選ぼう」

成績などの固定化した視点だけを用いて進路選択をしている生徒が多いという現状をうけて、より深い自己理解と広い視点を持たせることをねらって、本実践が行われた。まず、特技や適性など、自己アピールする材料をできるだけたくさん生徒各自に書き出させ、それを黒板に掲示した。その後、それらを７つの視点（①興味・関心、②特技・適性、③性格・行動、④学習、⑤体・健康、⑥特別活動・部活動、⑦将来の夢等）にグループ分けする活動を取り入れた。最後に、この７つの視点に従ってもう一度自分の特徴を書き出させたり、班内の仲間にその人の良さを付け加えてあげる活動を行った。

この中で、自己アピールの材料を７つに分類する活動と自分の特徴を７つの視点で書き出す活動が「情報活用能力」の育成に関わるものと考えた。また、研究授業の次時には自分の特徴を「ＰＲ履歴書」にまとめさせたが、この活動も前時に書き出したデータを進路選択に役立たせるために整理して書くことを目的とし「情報活用能力」の育成に関わるものとして意図的に取り入れた。

③『将来設計能力の育成』に関わって

【実践例４】《学級活動》（２年）「働くことと職業」

「なぜ、人は働くのだろう？」という課題を提示し、班毎の話し合い活動の後、課題に対する考えを発表させた。次に、出てきた意見をクラス全体で３つ（「お金のため(経済性)」「人のため(社会性)「自分のため(個人性)」）に分類した。その後、自分が重視する働く目的は何かとその理由を考えさせ発表させる授業を仕組んだ。

本実践では、働く目的に関する自分の考えを持たせることが「将来設計能力」の育成につながるものと考えた。しかし、自分が重視する働く目的をすぐに答えられる生徒ばかりではないという実態を考え、はじめに班内での話し合い活動を取り入れ、３つの目的に分類を行った後にその中から重視する目的を選ばせるという手法をとった。発表はスムーズに行われたが、意見の練り合いの部分でより工夫を行う必要があった。

【実践例５】《道徳》（１年）「勤労の尊さ(公共の福祉)」　～トイレ掃除から学ぶ～

本校で５年前に実施した素手でトイレ掃除を行う奉仕活動（「掃除に学ぶ会」の方と一緒に本校で行ったり、出身小学校に出向いて行った）の様子を資料として用い、勤労の尊さや奉仕活動の精神のあり方について考えさせた。その当時に活動に参加した先輩達の心情を想像させたり、自分たちができる奉仕活動は何かを考えさせたりする中で、自分の役割を把握して実行するという、「将来設計能力」の育成につなげらてたと考える。

④『意思決定能力の育成』に関わって

【実践例６(２と同じ)】《国語》（１年）「私の一冊」を紹介しよう　～紹介のスピーチをする～

紹介する本を生徒個々に選択させた。またスピーチの中で１つは小道具を使用させるようにしたが、どんな小道具を使うかについても本人に決めさせた。さらに、問いかけの文をスピーチ原稿のどの部分に入れるのか等の構成についても各自に考えさせた。スピーチで問いかけた際には、聞き手の反応をみて問いかけに対する指名を行うかどうかその場の状況に応じた対応をさせるようにした。これらのことにより、「意思決定能力」の育成を図ることを考えた。

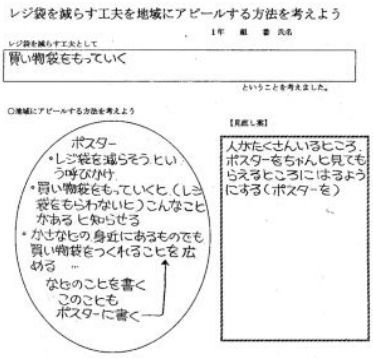
【実践例７】《音楽》（２年）「アンサンブルの楽しみ」

教材としてハンドベルを用い、５～６人の班で１人あたり２～３音を担当させた。その中で自分が担当する音を選択させたが、グループ全体でミスが少なくなるような選択のさせ方を考えさせたり、練習の過程で担当音の変更を考えさせたりした。ハンドベルは前の学期でも１度扱っていたため、生徒はスムーズに音の選択ができていた。この活動により「意思決定能力」の育成につながった。

(2) **仮説２「積極的な活動姿勢に結びつくための個に応じた指導の工夫」について**

【実践例８】《技術・家庭科》（１年）「わたしたちの生活と環境」（家族と家庭生活）

ゴミの減量として「レジ袋を減らす工夫を考える」という課題を設定し、生徒各自に自分の考えを学習プリントに書かせ発表させる活動を取り入れた。さらにその工夫を地域の人達にアピールする方法も考えさせたが、①学習プリントに自分の考えを書かせる→②班内で考えを発表し合い、自分の考えを修正する→③クラス全体での発表という３段階を踏ませることによって、積極的に発言しようとする活動姿勢を促した。



【実践例９（２と同じ）】《国語》（１年）「私の一冊」を紹介しよう　～紹介のスピーチをする～

グループを作って発表をすることで互いに話し合い認め合う場面を設定し、一人一人が自信を持ってスピーチができるようにした。

また、小道具や問いかけの文をスピーチに入れることで、聞き手と読み手の関わり合いを持たせ、スピーチの面白さを実感することがきるように考えた。これらのことにより、生徒個々が意欲的にスピーチを行うことができた。

【実践例１０（７と同じ）】《音楽》（２年）「アンサンブルの楽しみ」

アンサンブルを行う楽器として生徒の個人差があまり大きくないハンドベルを用いたこと、さらにハンドベルのセットを３組準備して実物を使った練習時間を多くとれるようにしたことにより、練習や発表時に意欲的な姿勢がみられた。また、グループ内で選択する音を選ぶ場面では、演奏が楽になる選び方の例をグループ毎にアドバイスしていった。各グループに音楽の得意な生徒を１名以上配置する工夫も行い、音の選択場面や練習の場面でリーダー役を任せた。

３　成果と課題（○成果、●課題）

○　「人間関係形成能力」の育成に関わって、指導過程の中に生徒同士の関わり合いのある学習活動を取り入れる工夫を行ってきた。これまで学級・学年経営をベースに培ってきた生徒同士の良好な人間関係から、関わり合いのある学習活動はどのクラスにおいても円滑に進んでいった。そしてその関わり合いの中で、課題解決に向けて学習活動が進むと同時に、良好な人間関係を広めたり深めたりしていくことができた。

○　「意思決定能力」の育成に関わって、生徒に学習素材等を選択させる工夫を行ってきた。生徒は自分が選んだ学習素材があり、それを用いて学習を進める十分な時間が確保されている場合には、大変意欲的に学習に取り組むようになるということが国語のスピーチの実践等からわかった。

○　音楽のアンサンブルの授業でハンドベルを用いた実践を行った。ハンドベルは３組準備し、練習時間の多くは実物が使えるようにした。この実践の中で、自分が担当する音を選ばせ「意思決定能力」の育成と関わらせた。また、グループの全員の協力がなければ曲の演奏が完成しないことから、練習場面における生徒どうしの関わり合いが積極的に行われ、「人間関係形成能力」の育成にもつながった。キャリア教育で育成する能力との関係において、音楽のアンサンブルで用いるハンドベルは、大変有効な教材であることがわかった。このような教材が他教科にもないかを考えていくことによって、研究成果をより広めていきたい。

○　学級活動と総合的な学習の年間計画内に、キャリア教育の４能力との関連を明記し、年間指導計画に従って自己理解や職業・進路選択等に関わる学級活動・総合的な学習を行ってきた。学年単位で進路に関する学習を充実させることができ、生徒の職業的発達に関わる４能力を少しずつ向上させてきている。

○　道徳では、今まで行ってきた授業を「キャリア教育」という視点から見つめ直し、「勤労の尊さ」や「自己の役割」等に関する徳目を重点的に扱った。また「勤労・奉仕」の大切さを学ばせるため、５年前に本校の先輩達が行った「トイレ掃除に学ぶ」活動の様子を教材化した。当時の先輩の心情を想像させることにより「勤労・奉仕」の大切さについて生徒の考えを深く掘り下げることができた。

○　第２学年で取り組んだ５日間連続の職場体験では、多くの生徒が働く大変さや責任感等を感じ、職業観・勤労観の変容をもたらした。今後の職業学習や進路学習を行うにあたって、この体験がプラスに働く場面がたくさん見られるのではないかと考えている。

○　「積極的な活動姿勢に結びつくための工夫」として、発表の前に自分の考えを学習プリントに書かせたり、ペアでの活動や班活動を取り入れる工夫を行ってきた。これらにより、話し合い後の発表場面や実験の場面においては、積極的な生徒の姿が見られた。

●１教時毎の目標の吟味が適切に行われていない実践が一部にみられた。どのような活動により、具体的にどのような生徒の姿を目指すのかを明記し、生徒の確かな力を養うことができる実践を行っていかなければならない。

●　生徒同士を関わらせる活動場面において、「はじめに活動ありき」といった実践がみられた。関わり合いのある活動を仕組む場合、課題解決のために必要な活動かどうかを検討し、目標達成のために必要感のある活動を取り入れるようにしていかなければならない。また、関わり合いの質の向上（多様な関わり合い等）も考えていく必要がある。

●　仮説２に記載している「積極的な活動姿勢」については、具体的には「積極的に挙手・発言する生徒」の姿を目指していきたいと考えていた。そのことを明記した上で共通実践を進めていくべきであった。

●　グループ活動やペア活動を仕組む場合、目標達成に向けて意図的にグループ・ペアを組んでみることが今後の課題の一つとして残った。